

第4次砺波市地域福祉活動計画

令和6年度 評価シート

(砺波市社会福祉協議会)

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和6年度評価（報告）

1 砺波市地域福祉活動計画

第4次砺波市地域福祉活動計画（以下「地域福祉活動計画」という。）は、「互いに助けあい励ましあう あたたかいまちづくり」の実現に向けて、地域住民が主体となり地域福祉を推進していくための活動の方向を示した5か年（令和3年度から令和7年度まで）計画です。

2 砺波市地域福祉活動計画の評価

この評価は、地域福祉活動計画に掲げる各実施計画に対して行うものであり、砺波市地域福祉活動計画評価委員会（以下「評価委員会」という。）において、令和6年度の事業実績及び計画の進捗状況について評価・検証いただくものです。

3 第4次砺波市地域福祉活動計画 令和6年度の評価の方法

- （1）砺波市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）において、11の実施計画の令和6年度における実施状況等を確認し、以下のとおり、4段階評価の自己評価を行いました。
- （2）市社協の自己評価をもとに、評価委員会（令和7年4月24日開催）にて実施状況等を評価・検証し、以下のとおり、4段階評価の総合評価を行いました。

4段階評価

3	計画どおり進んでいる。 （8割以上）
2	概ね計画どおり進んでいる。 （7～8割程度）
1	あまり進んでいない。 （4～6割程度）
0	進んでいない。 （3割以下）

4 評価の結果（まとめ）

評価結果は「評価シート」のとおりです。

5 令和6年度の評価を踏まえて

市社協では、この評価を踏まえ、評価シートの「今後の方向性」で示した部分を重点事項として、令和7年度事業計画の実施と地域や関係機関と一緒に福祉課題の解決に向けて取り組み、地域福祉活動計画の推進を図っていきます。

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価①		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成
	推進目標	① 地区福祉推進協議会と連携し地域課題の解決につなげます
	実施計画	地区福祉プランの支援
	ねらい	策定された地区福祉プランを基に、各地区での福祉活動の推進に向け支援することで、地域課題の解決と福祉への意識付けにつなげます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る主 な指標	計画の説明会を開催した地区数(評価も含む)	18 地区	20 地区	21 地区	21 地区	
	地区懇談会等へ社協職員の出席回数	65 回	71 回	88 回	132 回	
主な 取り組み	■各地区福祉プラン実施に向けての活動支援協力 ・21地区に地区福祉プランヒアリング訪問を実施し、3年目の進捗状況を確認するとともに今後の取り組みや課題について検討した。(地区と社協) ・21地区で地域福祉懇談会を開催し、地域課題の掘り起こしをするとともに第2次地区福祉プラン策定に向けて検討した。(地区と社協、関係機関) ・砺波型福祉のまちづくり事業の「地域なんでも相談窓口」を7地区で開設したほか、社協職員も定期的に出張相談や訪問支援を行った。(地区と社協)					
	主な地区福祉プランの取り組み 梅檀山地区：高齢者の見守り活動の強化 ⇒福祉・防災マップづくり 鷹栖地区：地域交流の場づくり ⇒砺波工業高校生が公民館行事に参加しゲームコーナーの開設 東野尻地区：高齢者を支える地域づくり ⇒認知症徘徊模擬訓練の実施					

成果と課題	・地区福祉プランがあることで、課題や目標が明確となり福祉活動が取り組みやすくなったと地区から意見があった。 ・地域福祉懇談会において、第1次地区福祉プランの進捗状況と取り組みが十分でない課題を明確にするとともに、多様な世代の参加があったことで、新たな福祉課題を掘り起こすことができた。これらのことを第2次地区福祉プランに反映していくことが重要である。 ・地域福祉懇談会に限らず、多くの機会で地域の方と地区福祉プランについて話し合ってきたことで、地域と社協の繋がりが強くなったと感じる。 ・地区福祉プランを着実に進める地区がある一方、福祉活動に積極的な人材が少ないこともあり、思うように進まない地区がある。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・地区福祉プランがあることで目標や方向性が明確となり、地域の福祉活動が取り組みやすくなったと感じる。また、市社協が積極的に地域に出向き、一緒に取り組むことで、地域と市社協との繋がりが強くなってきた。 ・一方で、地区福祉プランの活動が十分でない地区もある。ヒアリングや地域福祉懇談会の結果を踏まえ、地域住民が取り組める第2次地区福祉プランの策定につなげてほしい。市社協の積極的な支援に期待する。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・地区福祉プランの進捗状況を確認し、課題を明確にすることで解決に向けての取り組みを一緒に考えていく。 ・第1次地区福祉プランの評価と地域福祉懇談会の結果などを踏まえ、地域住民が参加し福祉課題の解決に向けて取り組める第2次地区福祉プランを策定できるよう支援する。
--------	---

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価②		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成
	推進目標	② 福祉を身近なものに感じてもらえるよう福祉教育の充実を図ります
	実施計画	福祉教育の充実【重点計画】
	ねらい	子どもから大人まで、福祉について知る機会を多くつくり、福祉に関心を持つ人を増やします。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成果を 主る果を	小中学校等への授業への協力回数	14 回	20 回	22 回	28 回	
	地域や企業に向けた出前講座の実施回数	3 回	11 回	9 回	10 回	
主な取り組み	■福祉教育プログラム検討会の開催					
	・福祉教育推進委員会を開催し、実施した福祉教育の評価を行った。評価をもとに「福祉教育プログラム」を作成し、学校等に配布した。(委員会と社協) ・依頼のあった小学校と一緒に、福祉教育のプログラムを考え実施し、その中から新たなプログラムを実施することができた。(学校と社協) ・児童が福祉教育で学んだことを保護者の前で発表する機会を作った。(学校と社協) ・中学校で高齢者についての福祉教育を実施した。 ・高校生の福祉課題解決研究の取り組みに社協と地域で協力した。(学校と地域、社協)					
	■地域や企業に向けた出前講座の実施					
		・新しい出前講座の一覧をサロン等に配布し、出前講座活用の働きかけを行った。(社協) ・災害ボランティアについて、地域や各種団体で研修会を開催した。(地域、団体と社協) ・公民館まつりで社協の出張所を開設し、相談の受付や事業についての説明を行った。eスポーツの出前講座の依頼も受け、三世代で楽しむ機会を作った。				

成果と課題	・新たな学校(中学校含む)からの福祉教育の依頼があり、福祉教育への関心が高くなっていると感じる。また、プログラムの終わりに児童が保護者の前で、体験したこと、考えたこと、今後取り組むことなどを発表する学校が増え、子どもと一緒に大人も福祉を考えるきっかけとなっている。 ・地域や関係団体からの出前講座の依頼は増えてきているが、企業からの依頼はほとんどない。企業に福祉を知ってもらうためのきっかけづくりが課題である。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・子どもの頃に福祉について考えることは、福祉や地域に関わる次世代の人材育成につながると考えるので、より一層の福祉教育の推進に期待する。 ・福祉教育プログラムの中で、子どもと大人と一緒に福祉について考える機会を作ったことは良いが、その結果、どのような変化があったか、取り組みにつながったかなどの評価ができていない。 ・子どもに対してだけでなく、企業や一般市民を巻き込んだ福祉教育の推進に期待する。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・福祉教育をより一層推進していく。福祉教育プログラムを実施後、子どもたち(参加者)にどのような変化があったか、福祉への理解が深まったのかを調査検証し、福祉教育プログラムに活かしていく。 ・他の事業等での企業との関わりの中に、福祉教育の要素を取り入れ、福祉の関心へとつなげる。
--------	--

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価③		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(2) 活動の中心となる担い手の育成
	推進目標	③ 地区の福祉活動者の支援を行います
	実施計画	「我が事情報」の勉強会の開催
	ねらい	将来の自分に役立つ情報を知るとともに、見守る側、お手伝いする側としての知識を広げます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成 指果 標主 を	福祉活動者向けの研修会の開催回数	13 回	35 回	54 回	56 回	
主な 取 組 み	■地区の福祉活動者向けの福祉に関する研修会の開催					
	・民生委員児童委員の定例会で、社協の事業についてミニ研修を開催した。(民児協と社協) ・地域福祉コーディネーター連絡会を3回開催した。(コーディネーターと社協) ・自治会長や福祉サポーター等が参加するケアネット会議を18回開催した。(地区と社協) ・地区福祉推進協議会等で福祉サポーターの研修会を19回開催した。(地区と社協) ・民生委員児童委員、地域福祉コーディネーター等が参加するケアネット活動研修会(103人)を開催した。(福祉活動者・関係機関、社協)					
	■地区福祉推進協議会に出向き、住民への福祉情報の提供					
	・地域なんでも相談窓口でCSWが出張し相談を受けるとともに情報を行った。(地区と社協) ・ボランティア養成講座や福祉イベント等の情報を各地区に配布し、回覧板による地区住民への周知をお願いした。(地区と社協) ・公民館まつりで社協の出張所を開設、福祉情報の発信を行った。(地区と社協)					

成果と課題	・研修会に限らず、公民館まつりや地域カフェなど人が集まる場所に社協の窓口を開設することで、福祉関係者以外にも福祉について伝える機会が増えてきている。 ・福祉サポーターの改選により研修会を多く開催することはできたが、「福祉サポーターの役割は何?」「何をすればよいかわからない」という言葉がよく聞かれ、理解が進んでいない。また、地区によっては、全く活動する機会がない。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・地域の福祉人材の育成に積極的な取り組みを期待する。特に福祉サポーターに対して、研修会で好事例などを紹介し、役割の理解につなげてはどうか。福祉サポーターだけでなく、地域の方にも福祉サポーターが認識されるよう、取り組んで行くことが重要である。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・民生委員児童委員と福祉サポーターとの意見交換の機会を作り、それぞれの役割を理解するとともに連携を深める。 ・地区の広報等で福祉サポーターを紹介し、地域住民に福祉サポーターの存在を周知する。
--------	--

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価④		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(2) 活動の中心となる担い手の育成
	推進目標	④ 福祉活動の担い手の育成と新たな人材の掘り起こしを行います
	実施計画	地域を支える人材の発掘と育成【重点計画】
	ねらい	地域で行われている福祉活動について知ってもらい、世代を問わず、地域で活躍する新たな人材発掘につなげます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成果を 指標主を	福祉活動者数(ケアネット等参加延べ人数)	592 人	1,012 人	1,039 人	916 人	
	福祉サポーター数	396 人	374 人	372 人	373 人	
	ボランティア養成講座受講者数	34 人	23 人	31 人	53 人	
主な取り組み	■現在行っているボランティア活動や地域の福祉活動者の情報を発信 ・市内ショッピングセンターでボランティア活動紹介展を開催し、ボランティア体験コーナーの実施や活動写真パネルを展示した。(ボランティアと企業、社協) ・ボランティアフェスティバルを開催し、体験コーナーや活動紹介写真を展示した。(ボランティアと社協) ・広報やホームページ、SNSでボランティア活動の情報を発信した。(社協)					
	■地区の福祉活動を発信し協力者を発掘 ・地区の会議等で福祉サポーターに役割を説明した。(地区と社協) ・地域福祉懇談会を開催し地域の福祉課題を話し合うことで、若い方にも福祉に関心を持ってもらう機会となった。(地区と社協)					
	■地区内の専門分野で活躍する人材の把握と活用 ・働くことに困難を抱えているが、ゲームが得意な方にeスポーツサポーターになってもらい、サロン等で活動していただいた。(ボランティアと社協)					
	■地域の福祉活動者への福祉情報の提供 ・民生委員児童委員の定例会で、社協の事業についてミニ研修を行った。(民児協と社協) ・地域福祉コーディネーターに対し、福祉情報の提供や他地区の取組みを伝えた。(コーディネーターと社協) ・ケアネット会議等に集まった福祉サポーターに対し、事業や市内の福祉についての情報を発信した。(福祉サポーターと社協)					

成果と課題	・地域福祉懇談会を開催したところ、多くの地区で若い世代の方や普段福祉に関わっていない方の参加もあり、多様な意見を得ることができた。また、福祉活動の現状を知る機会となり、我が事として関心を持ってもらえたようで、自分ができることを提案されていた。 ・ひきこもりがちな方々の特技と地域の取組みを結びつけたところ、地域では必要な人材となり、本人たちにとって意欲的な活動につながった。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・福祉活動者数が伸びていないことから、より多くの市民への福祉に関する広報活動や活動の機会の提供を進めていくことと、今後も地域福祉懇談会を開催して、地域住民が福祉活動を知るきっかけとなるよう取り組んでいくことが求められる。 ・ひきこもりがちな方が地域の必要な人材となっていることはとても素晴らしいことである。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後性の方向	・ホームページやSNS、広報、研修会や懇談会など様々な方法で、地域の福祉活動の情報を発信し、福祉活動を知るきっかけづくりを行う。 ・地域が求める人材と市社協が持つ福祉活動者や活動希望者の情報をマッチングしていく。
--------	---

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑤		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(1) ボランティア活動の推進
	推進目標	⑤ ボランティア活動者の活躍の場を広げます。
	実施計画	ボランティア活動の推進
	ねらい	ボランティアを身近に感じられる体制づくりや、ボランティア活動の紹介などを通して活動の場を拡充していくなど、ボランティアセンターの機能の強化を図ります。

	指標の名称	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成果を 指標主を	ボランティア登録者数	4,825 人	4,461 人	4,501 人	4,640 人	
	レッツボランティア となみポイント制	11,527 人	12,147 人	21,335 人	20,305 人	
	シニア元気あっぷポ イント事業	2,128 人	2,152 人	2,168 人	1,791 人	

主な 取り組み	■ SNS等を活用したボランティア情報の発信
	・ ホームページでボランティア募集情報を発信した。(社協)
	・ ボランティア活動の様子を SNS で発信した。(社協)
	■ 企業と連携した啓発活動の推進
	・ ショッピングセンターで「ボランティア活動紹介展」を開催し、ボランティア体験コーナーの実施や活動写真パネルを展示した。(ボランティアと社協)
	■ 生涯学習としてのボランティア活動の推進
	・ 手話奉仕員養成講座(基礎コース)を開催した。(社協)
	・ 市民から災害ボランティアを広く募集し、輪島市の支援を行った。
	■ 専門分野で活躍する人材の把握と活用
	・ 小学校での出前講座では、市内で活躍するボランティア団体に活動の様子を話してもらった。(学校とボランティア、社協)
	・ 盲導犬ユーザー(視覚障害)に福祉教育の講師となってもらった。(学校と障がい者、社協)
	・ 雑誌等のデザイナーをしていた方(障がい者)が、ボランティアとしてボランティアフェスティバルのチラシを作成された。(ボランティアと社協)
	■ ニーズに応じたボランティア養成講座の開催
	・ 「手話を体験したい」「話の聴き方を学びたい」「点字を啓発したい」等の声があり、多様なコミュニケーション講座を開催した。(社協)
	■ 短時間ボランティア、自宅で出来るボランティアなど新たなボランティア活動の仕組みづくり
	・ 気軽に参加できる「ボランティアパック」を作り、何個でも体験できるボランティアを提案した。(社協)

成果と課題	・ ボランティアパックを体験したことで、ボランティアグループに加入し活動を始められた方が数名おられた。また、子どもから高齢者までの幅広い世代の参加があり、気軽なボランティア活動のきっかけとなった。 ・ ボランティアグループメンバーの高齢化でグループの維持が難しくなっていることと、地域のニーズが変わってきたことにより、求められなくなってきたボランティア活動がある。	社協判定
		3
評価委員会の 意見	・ ボランティアパックは、子どもから高齢者まで幅広く参加され、参加者がボランティアグループに加入するなど、気軽なボランティア活動へのきっかけとなっている。今後は、「きっかけ」だけでなく、「継続的」な活動につながるような仕組みづくりが求められる。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の 方向性	・ ボランティアパックやボランティア養成講座の参加者に、定期的にボランティア情報を提供し、新たな活動や継続的な活動につなげる。
------------	---

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑥		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(2) 地域における絆の強化
	推進目標	⑥ 地域について学ぶ場やふれあいの場の充実を図ります
	実施計画	地域での交流の場の活性化
	ねらい	子ども、高齢者、障がい者など、誰もがお互いを尊重し、地域の中で積極的に関わりがもてるような居場所や学びの場を提供し、交流活動を推進します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成果 指標主を	子育て支援事業参加人数	475 人	915 人	1,790 人	3,771 人	
主な 取組 組み	■子どもや障がい者に対する地域行事などへの参加呼びかけ ・公民館まつりで、e スポーツ体験を通して、子どもと高齢者が一緒に楽しむ機会を作った。(地区と社協) ・地域のりんご農家でリンゴ摘みとアップルパイ作り体験を行い、地域の方と交流を図った。(地域と福祉センター、社協) ・同地区にある高校の生徒に公民館まつりにイベントブースを作ってもらった。(地区と高校) ・砺波型福祉のまちづくり事業のふれあい型で、多世代がふれあう地域づくりを推進した。(地域と社協)					
	■福祉センターを活用し、多様な世代が集う交流拠点となるような場づくり ・各福祉センターの特色を活かして、子どもやその親を対象にしたイベントや若い世代も興味もてる講座を開催した。(福祉センター) ・夏休みなどの長期休みに児童の居場所となるよう、苗加苑と北部苑でイベントを開催し、ボランティアや福祉センター利用者との交流を図った。(福祉センターと社協) ・百歳体操や健康体操などを開催し介護予防を推進した。(福祉センター) ・地域のボランティアグループの協力のもと、親子を対象にしたそば打ち体験を行った。(地域と庄東センター) ・市とエフエムとなみと協力しスマホ教室を開催した。(市と企業、福祉センター)					

成果と課題	・砺波型福祉のまちづくり事業により、高齢者に限らず子どもから障がい者、属性、年代を問わない居場所づくりやイベントの開催に取り組む地区が増えてきた。また、e スポーツやユニバーサルスポーツ等を活用して、子どもと大人と一緒に楽しめる機会づくりが増えてきた。 ・福祉センターの子どものイベントをきっかけに、いつでも利用できる施設として認識が広まり、長期の休みや放課後、雨の日などに子どもの利用者が増えてきた。市として多世代が利用できる施設として活用を広めていくため、「福祉センター」から「多世代交流施設」と名称を変更することになった。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・地域で子どもや障がい者、高齢者などがふれあう機会づくりや身近で気軽に集える居場所づくりが広まってきている。今後も、この取り組みが他の地域にも広まっていくよう、砺波型福祉のまちづくり事業のより一層の推進に期待する。 ・福祉センターの子どもの利用が増えていることはとても良いことである。今後は、多世代交流施設として、広く市民に利用される施設となるようイベントや広報活動を行うとともに、実際に多世代が交流する場づくりを行うことが重要である。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・誰もが気軽に集える居場所が増えていくよう、砺波型福祉のまちづくり事業をより一層推進していく。 ・多世代交流施設が多世代、障がい者が交流する場となるよう取り組んでいく。
--------	---

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑦		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(2) 地域における絆の強化
	推進目標	⑦ 支え合う福祉活動を推進します
	実施計画	見守り活動の推進【重点計画】
	ねらい	日常的な住民同士の見守り活動を推進し、お互いさまで支えあう地域づくりを支援します。

	指標の名称	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る主 な指標	ケアネットチーム数	206 チーム	263 チーム	258 チーム	211 チーム	
	見守り配食数	3,438 食	3,184 食	2,971 食	2,574 食	
	ふれあい・いきいきサロン数	133 サロン	133 サロン	131 サロン	131 サロン	

主な 取組 み	■学校、家庭、地域が連携して子どもを見守り育んでいく環境づくり ・見守りが必要な子育て世帯について、行政や地域と情報共有を行っている。(関係機関と地域) ・子どもの学習支援事業を受託し、NPOやボランティア、社協が協力しながら支援が必要な子どもとその世帯を支援している。(関係者と社協) ・地区において、子育てボランティアグループが地区の実情に合わせて活動している。(地域とボランティア)					
	■支援が必要な人への見守り体制づくり ・地域に出向きケアネットについて説明を行い、周知と活動への協力をお願いした。(地区と社協) ・広報やFM となみでケアネット活動について発信した。(社協) ・地域福祉懇談会で見守り体制について話し合った。(地域と社協) ・みまもり配食利用者へ小中学生が書いたポストカードを配った。(児童・生徒と社協)					
	■いきがいくづくり、仲間づくりとしての居場所の整備 ・ふれあい・いきいきサロン代表者交流会を開催し、意見交換を通し交流を深めるとともに参考となる取組みを話し合った。(サロンと社協) ・ふれあい・いきいきサロン活動の参考として、レクリエーションや出前講座等の「おしながき」を配布した。(サロンと社協) ・ふれあい・いきいきサロンにeスポーツを推進した。(社協) ・地域カフェや地域食堂を実施する地域が増えてきた。(地域)					
	■研修会等を開催し、推進地区の取組みの紹介 ・ケアネット活動研修会を開催し、実践事例の紹介を行った。(地域と関係機関、社協) ・ケアネット活動推進会議の開催とケアネットのアンケートを実施した。(地域と社協)					

成果と課題	・地域福祉懇談会において地域の見守り活動の現状を共有したことで、活動を知らない方にも知っていただく機会となり、見守りにおける課題の解決等の話し合いができた。 ・みまもり配食の利用者が減少してきているのは、民間事業所の配食サービスが充実してきていることと見守りが必要とされる方が入院や入所、他の福祉サービスを利用することがあげられる。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・ケアネットやみまもり配食、地域カフェなど地域住民による見守り活動が充実してきているが、福祉サービスとの連携や新たな社会資源を活用し見守り体制を強化していくことが重要である。特に、地域で障がい者の支援体制づくりに取り組んでいくことが求められる。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・災害時に活かされる防災マップを活用し、普段の見守りを災害時の支援につなげるため福祉防災マップの作成と活用を行っていく。高齢者に限らず、見守りが必要な障がい者や子育て世帯も含める。
--------	--

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑧		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(1) 相談支援体制の充実
	推進目標	⑧ 複雑に重なりあう困りごとに対応していきます
	実施計画	複合的な課題に対する相談支援体制の強化【重点計画】
	ねらい	多様な生活課題に対応していくために、各種専門機関と連携し、身近で気軽な相談場所の設置と、適切な助言と支援を受けることができるよう体制を整備します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成果 指標主を	事例検討会の開催回数	11 回	8 回	13 回	9 回	
	福祉総合相談件数	4,645 件	5,172 件	5,697 件	5,908 件	
	生活困窮者自立支援事業新規相談件数	59 件	50 件	78 件	44 件	
主な取り組み	■福祉総合相談事業の周知					
	・広報、社協HP、地域の掲示板などを活用し相談会の案内をした。(社協) ・生活困窮者自立相談支援事業を受託し、市と連携を図りながら、相談窓口の周知を図った。(市と社協) ・「地域なんでも相談窓口(7地区)」を身近な相談窓口として広報等で周知を図った。(地域と社協)					
	■事例検討会や勉強会を通し各相談機関とのネットワークを強化					
	・相談支援事業所、福祉関係者、地域の方、弁護士等に参加してもらい、複合的な課題を抱える事例の検討を行った。(関係機関と社協)					
	■広報や回覧板、HP、SNSなどを活用し、気軽に相談できる体制づくり					
	・「地域なんでも相談窓口(7地区)」を身近な相談窓口として開設し、地域と社協が連携して地域の相談体制を構築した。(地域と社協) ・福祉の情報や相談窓口について、HPやSNS、回覧板等で発信した。(社協)					

成果と課題	・地域なんでも相談窓口が設置されたことで、地域に身近で気軽に相談できる場所が増えた。相談に対し地域で解決できることは地域で取り組み、難しい相談は社協につなぐという相談体制が整ってきた。地域も相談を受けることで、地域の福祉課題として認識するようになってきた。 ・相談機関との連携は深まってきたが、個人情報保護等の課題もあり、地域を含めた包括的な体制はまだ十分ではない。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・地域なんでも相談窓口が地域の身近な相談場所として多くの相談が寄せられたことから、地域住民にとって重要な場所となっている。相談の内容から地域の福祉課題も把握することにつながっている。今後も、気軽に相談が出来て、解決に向けての支援体制が整っていくことが重要である。この相談窓口が全地区で設置されることを期待する。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・地域なんでも相談窓口を実施していない地区に、実施地区での取り組みとその効果を紹介し、開設してもらうよう支援していく。
--------	---

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑨		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(2) 防災、防犯、緊急時体制の整備
	推進目標	⑨ 災害に強い地域づくりを目指します
	実施計画	災害救援ボランティアセンターの体制強化
	ねらい	災害発生時のボランティア活動を効率よく行うために、災害救援ボランティアセンターの機能強化を図るとともに、センター運営について市との連携を図ります。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成 指果 標主 を	訓練・研修への参加者数	25 人	115 人	92 人	72 人	
主な 取 組 み	■市と社協との災害に関する連携強化					
	・市の総合防災訓練に合わせて、災害ボランティアセンター運営訓練を実施した。(市と社協)					
	■ボランティア団体、企業など民間組織との連携強化					
	・災害ボランティアセンター運営訓練に、となみセントラルライオンズクラブ、となみ青年会議所、民生委員児童委員等に参加していただいた。(企業と地区、社協)					
	■実際の災害を想定した訓練の実施					
	・輪島市等の支援で得た経験を活かした設置運営訓練を実施した。(社協)					
	■地域住民を交えた訓練の実施					
	・市の総合防災訓練に合わせて、災害ボランティアセンター運営訓練と福祉避難所開設訓練を地域住民と実施した。(地区と市、社協) ・市民ボランティアを募り、輪島市の災害ボランティア活動に参加した。(市民と社協)					
	■災害救援ボランティアセンターの支援体制ネットワークの構築					
	・輪島市の災害ボランティアセンターに職員を派遣し、センター業務の支援を行うとともに実際の現場を体験した。(社協) ・県内で災害ボランティア活動に必要な資材を保管するネットワークができ、砺波市社協がその拠点の一つとなった。(県社協と市社協) ・砺波市福祉健康大会で氷見市の災害支援の現状を氷見市社協の職員に講演していただいた。(社協)					

成果と課題	・能登半島地震を体験したことで、市民の災害に関する意識は高まってきている。 ・輪島市等の災害現場の支援を経験したことで、実際の災害を想定した訓練を緊張感を持って実施することができ、参加者からも「重要性を感じた」「もっと多くの人に体験してもらいたい」と意見があった。また、足りない部分や課題も見えてきたことから、引き続き体制整備や訓練に取り組んでいくことが求められる。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・災害はいつ起こるか分からないことから、常日頃から訓練をしておくことが重要である。輪島市で経験したことを訓練に活かしていることは評価できる。経験から見えてきた課題を、訓練を通して一つずつ解決していくことが重要である。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

方向性の今後の	・経験を活かした運営訓練を実施していく。 ・デジタルツール（キントーン）を訓練に活用していく。
---------	--

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑩-1		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(3) 安心して暮らせる基盤づくり
	推進目標	⑩-1 福祉の情報をわかりやすく伝えます
	実施計画	情報発信や情報共有を行える7プラットフォームづくり 【重点計画】
	ねらい	地域の中で誰もが必要な福祉サービスなどを安心して利用できる ように、情報収集と情報発信の充実を図ります。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な図成果を 指標主	HP・ブログの更新回数	167 回	291 回	256 回	362 回	
主な 取り組み	■市内の福祉情報を集約し受発信する方法の検討					
	・市のホームページに社協の情報と連携できるよう依頼した。(市と社協) ・講座等の申込みをホームページから受付できるようにした。(社協)					
	■広報や回覧板、SNS等を活用し、誰でもわかりやすい情報発信					
	・XとInstagramでの情報発信を行った。(社協) ・ボランティア養成講座や福祉イベント等の情報を各地区に回覧板として配布し、広く周知をお願いした。(地区と社協)					

成果と課題	・イベントや講座の募集等でweb申込みを行ったことで、若い人からの申込みや、「楽に申し込めた」と意見もあり効果があった。今後より一層のwebによる申込みを進めていくとともに、従来の電話やFAX等の申込みも併せて実施していく。 ・ホームページやSNS等での情報発信に力を入れてきたが、広報を見て問い合わせしてきた方も多く、双方の良さを活かした情報発信が重要である。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・ホームページやSNS等の活用は大切だが、全世代に必要な福祉情報が提供できるように、広報や回覧板などの従来の方法も併せて活用することも重要である。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・全世代に必要な福祉情報が提供できるよう、適切な方法で情報を発信していく。
--------	---

令和6年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑩-2		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(3) 安心して暮らせる基盤づくり
	推進目標	⑩-2 地域の中の社会資源を活用し、多様な福祉課題に対応していきます
	実施計画	移動支援など生活課題の検討
	ねらい	地域の社会資源を活用し、移動に不便を感じておられる人の移動支援や生活課題などについて検討します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な 図 成 指 標 果 主 主	ふれあい号の利用者数（延べ）	477 人	525 人	549 人	432 人	
	福祉バス利用回数	25 回	54 回	80 回	99 回	
主 な 取 組 み	■ふれあい号のあり方の検討 ・ふれあい号友の会総会を開催し、運転ボランティアの意見を伺った。（ボランティアと社協） ・運転ボランティアの法定講習の受講機会や情報発信を増やし、運転ボランティアの確保に努めた。（社協）					
	■福祉バスの活用 ・サロン活動等の地域活動が増えたことで、福祉バスの利用回数が増加した。 ・梅檀山地区が、地域課題解決のため福祉バスを活用し、買い物や外出の支援を行った。（地区と社協） ・市民ボランティアを募って輪島で災害ボランティア活動を行った。（市民と社協）					
	■既存の社会資源の確認と活用 ・公民館等を活用して、誰でも集えるカフェや食堂を行う地区が増えてきた。（地区） ・ボランティア団体に市内の福祉サービスの紹介を行った。（社協） ・ふれあい号の対象にならない方をチョイソコとなみのサービスにつなげた。					
	■市内の福祉団体と生活課題に対する対応の検討 ・イオンモールとなみにおいて、市と医師会、社会福祉法人連絡会で相談会を開催し、ニーズの把握と課題解決に努めた。（企業、市と医師会、福祉団体） ・事例検討会で、課題の傾向と解決するための社会資源について検討した。（福祉関係機関と社協）					

成果と課題	・ふれあい号の登録者数が減ってきていることで、延べ利用者数が大きく減少した。理由として、車いす利用者等の在宅期間が短く、入所・入院する方が多いことがあげられる。また、チョイソコとなみの自宅まで来てくれるサービスを利用する方も増えてきたことも一因である。 ・地域福祉懇談会で、それぞれの地区にある社会資源を再確認し、活用について検討することができた。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・地域の社会資源を把握し、福祉課題の解決に活用していくことが重要であるが、従来の活用法だけでなく柔軟なアイデアで新たな活用法を検討していくことが求められる。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・既存の社会資源の活用の好事例を収集し、地域に提案していく。また、地域や市社協が持つ福祉活動者や活動希望者と社会資源とをマッチングし、新たな取り組みや課題解決につなげる。
--------	---